

登録コード:MH402100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	基礎作業学【20M以降】 Occupation and occupational therapy basis			
担当教員	小林 正義			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/1年		前期	火曜・4時限
単位数、講義室	1単位	保健学科121講義室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		人の生活を「作業」の視点から理解し、作業療法の視点から、人々の健康を支援することができる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		保健・医療・福祉領域の幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、作業療法の基礎的な技術を活用できる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		国際生活機能分類の視点から作業を分析し、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題解決を図る探究心と、作業療法の技術的発展に取り組む力が身についている。ICF分類を活用した包括的作業分析が実施できる。作業療法実践における生活行為向上マネジメントの利用法を説明できる。	
	環境共生、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	この授業では、作業・作業活動・生活行為・生活機能等の諸概念を理解し、作業遂行及び作業療法の理論と応用、作業療法における作業・作業活動の利用方法、人々の暮らしを支える生活行為のマネジメントについて理解を深めることを目的とします。 この授業は「基礎作業学実習」と関連し、「作業療法概論」とともに、2年次以降に履修する「作業療法評価学」「作業療法治療学」の基礎となる重要な科目です。 本授業は、担当教員の医療・保健・福祉領域の作業療法実践と、日本作業療法士協会、世界作業療法士連盟学会等における活動経験を活かして講義・演習を行います。			
授業計画	第1回（4月14日）作業療法の歴史的背景 第2回（4月21日）作業・作業活動・ひとの進化・発達と作業 第3回（4月28日）ライフサイクルと作業 第4回（5月12日）作業と心身機能 第5回（5月19日）作業と健康・幸福 第6回（5月26日）作業を用いる意義 第7回（6月2日）作業遂行の要素 第8回（6月9日）作業の選択＜中間試験＞ 第9回（6月16日）作業遂行の評価 第10回（6月23日）作業分析：（演習）ICFを用いた作業分析 第11回（6月30日）作業療法の理論1（課題提出） 第12回（7月7日）作業療法の理論2 第13回（7月14日）作業の治療的応用 第14回（7月21日）作業療法の視点（1） 第15回（7月28日）作業療法の視点（2）（授業アンケートの実施） 第16回（8月4日）＜期末試験＞			
授業の進め方	授業はテキストと配付資料およびパワーポイントのスライドを使って行いますが、能動学習による理解を促進させるために、中間試験、演習（レポート作成）を行います。演習では、基礎作業学実習で学んだ作業活動をICF（国際生活機能分類）の分類コードを使って分析し、レポートにまとめ提出してもらいます。作業療法の基礎となる「作業」について深く学ぶ機会とするために、授業の中で自身の「作業経験」について述べる機会を採り入れます。			
テキスト、教材、参考書	テキスト 1）齋藤佑樹編：基礎作業学テキスト．南江堂，2025 参考書 2）世界保健機構（WHO）：ICF国際生活機能分類（中央法規出版）			
成績評価の方法	中間試験，演習レポート，期末試験に基づいて総合的に成績を評価します． 総合的評価の配分は、中間試験40％、期末試験50％、レポート10％とし、総計の60％以上の得点を合格とします。中間試験は第8回（6月9日）、レポート提出は第11回（6月30日）、期末試験は第16回（8月4日）に行います。 中間試験と期末試験では、作業活動の概念、作業療法の定義、人の健康と作業・作業活動との関係、人々の健康回復を支援する作業療法の視点などに関する理解度を筆記試験にて確認します。			
成績評価の基準	中間試験およびレポート、期末試験の判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可			

成績評価の基準	これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択肢解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。 レポートは作業分析の正確さと妥当性、作業が及ぼす心身への影響性についての記述内容を評価します。
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 【事前学習】 毎回の授業の終わりに次回までに行ってくる課題を指示します。 【事後学習】 毎回の授業の終わりに、学習した内容について、教科書や資料等を再確認し、理解を深める箇所を指摘します。指摘する箇所は中間試験・期末試験の範囲となりますので、十分復習をしてください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	作業療法の専門性を基礎づける「作業と作業活動」の概念、国際生活機能分類（ICF）と作業療法の関連性について学びますので、作業療法の専門性を意識して意欲的に取り組んでください。 質問への対応：小林正義 mkobaya@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 12：10-13：00 南校舎2F 小林研究室